【研究主題】矢島高校鳥海探究の取組について
【副題】地域に根付いた総合的な探究の時間の在り方

【学校・団体名】秋田県立矢島高等学校
【役職・氏名】　教頭　淀谷　誠也
　　教諭　大石　敏孝

Ⅰ　本校の概況～研究主題設定の背景～

大正 15 年創立の本校は、旧矢島町が由利本荘市として合併されてもなお、地域に根ざし、地域と共に歩む学校として現在に至る。地域貢献としては、高齢者住宅の除雪、矢島小学校との交流、地元開催の行事等でボランティア活動を行っている。平成 21 年には全国初の校舎一体型の中高連携校となり、更に令和６年には矢島小学校も併設され、小中高連携校としてスタートすることになり、地域との結びつきが一層強まることが期待されている。また本校は、平成 30 年に県内の県立高校初となる学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールの指定を受けた。学校運営協議会では３つのワーキング・グループに分かれて協議を行い、地域連携の強化を図っている。

Ⅱ　研究目的について

高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編によれば、総合的な探究の時間の目標は、「探究の見方・考え方」を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指すとし、各学校が総合的な探究の時間の目標を設定するに当たっては、各学校の教育目標を踏まえて設定するとある。（※１）また、本県では「地域に根ざしたキャリア教育の充実」を学校教育の指針の最重点の教育課題としている。更に本校には卒業後の進路として県内就職を希望する生徒が多く、将来地域を支える人材を育成する使命がある。

そこで本校では、総合的な探究の時間を鳥海探究とし、１年次から３年次まで一気通貫した指導計画と指導目標をたて実施している。旧矢島町の歴史的文化財、継承されてきた伝統芸能や産業、鳥海山・飛島ジオパークをはじめとした自然について体験的に学習させた後グループ別探究活動を行い、地域の魅力や課題を考えることで、地域の将来について提言したり、自分の担うべき役割について考えたりする態度を育んでいる。

本研究は令和３年度入学の現３年生に焦点をあて、鳥海探究の実践についての検証を行い、今後の課題を見いだし、更なる充実を図ることを目的とする。

Ⅲ　鳥海探究の実践

１　１年次から３年次までの指導目標

１年	地域の歴史や文化に対する理解を深めるとともに豊かな自然に触れ、地域の課題を知る。
２年	地域の歴史や文化に対する理解を深めるとともに、自己の在り方・生き方を展望する。
３年	地域の産業や職業について学び、地域社会の一員として将来の生き方を求める。

２　学習・活動内容

１年次・鳥海探究Ⅰ（令和３年度）

（１）地域の歴史・文化についての学習

矢島郷土資料館見学、八森苑・佐藤政忠家見学、高建寺座禅体験、大井家住宅見学、茶道体験教室、土田家住宅見学、酒蔵見学

図１　高建寺座禅体験

（２）　自然についての学習

水林国有林における森林教室、獅子ヶ鼻湿原散策、鳥海ダム見学

図２　獅子ヶ鼻湿原散策

以上（１）、（２）について、事前学習や事後学習を行いながら、体験的に学習した。

２年次・鳥海探究Ⅱ（令和４年度）

（１）坂之下番楽の継承

坂之下番楽のお囃子や舞を練習し、その成果を 10 月に行われた学校祭で披露した。

補足
山伏神楽のうち、日本海側の秋田・山形県に分布するものを番楽とよぶ。（※２）坂之下番楽は旧矢島町の坂之下地区に伝承されている番楽である。

図３　学校祭における坂之下番楽披露

（２）グループ別探究活動

地域の歴史・文化についての学習、自然についての学習の後、２年生14名を３つのグループに分けて、それぞれ地域に関連したテーマを設定し、グループ別探究活動を行った。

各班の研究テーマ
① 地産地消の給食づくり
② ジオパークについて
③ 矢島八朔祭りについて

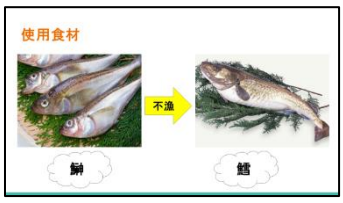
グループ別探究活動は、学校祭終了後の11月から３月にかけ、のべ18時間行った。

３年次・鳥海探究Ⅲ（令和５年度）

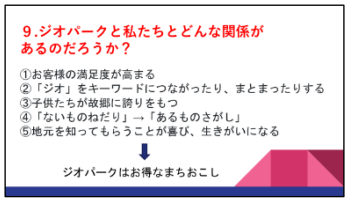
（１）グループ別探究活動のプレゼンテーション資料作成

プレゼンテーション資料の作成はのべ３時間行った。下は各班の資料の一部である。

①地産地消の給食づくり



②ジオパークについて



③矢島八朔祭りについて

図４　各班のプレゼンテーション資料（一部抜粋）

（２）鳥海探究グループ発表会（５月 11 日）

各班で調査研究したものを、全校生徒および教職員の前で発表した。以下生徒の発表内容である。

① 地産地消の給食づくり

地元の旧矢島町の直売所や由利本荘市内のスーパーにおいて、秋田県内で製造・収穫される食材についての市場調査を行い、学校給食での提供を前提とした地産地消の献立を作成した。

図５　作成した献立

献立
主食：しょっつるの炊き込みご飯
主菜：鱈のカリカリ揚げ
副菜：花野菜サラダ
汁物：わかめと豆腐の味噌汁

一食あたりの経費を算出したり試食を行ったりして、学校給食の献立としての改善点やその改善方法について検討した。研究を通して、秋田県産の食材の多様性を知るとともに、学校給食を通じた地元理解について考えた。また、令和６年度にスタートする矢島小・中学校の学校給食への取り入れを提言した。

② ジオパークについて

ジオパークについて調査し、世界遺産と比較しながら、設置の目的や審査方法などをまとめた。特に審査では、世界遺産は認定審査が一度行われると永続的に認められることに対し、ジオパークは４年に一度の審査があるため、国、都道府県、地域団体、民間企業、個人事業主などが連携すること、何より鳥海・飛島ジオパークについては、地元に住む自分たちが理解を深め、認知度を上げる取組をすることが大切だとした。その例として、観光案内人として調べた内容を観光客に伝える、広告などにまとめて配布したり掲示したりする、インスタグラムやYouTube などのＳＮＥを活用した発信などを挙げた。

生徒は、研究前は地元には何もないと考えていたが、鳥海・飛島ジオパークの素晴らしさを理解し、「ないものねだり」から「あるものさがし」をしよう、地元に誇りを持とうと問いかけた。

③　矢島八朔祭りについて

地元最大の祭典である、矢島朔祭りについて調査した。八朔祭りの意味について調べ、旧暦の八月朔日（８月１日）に五穀豊穣や豊年祈願を願って全国各地で行われていることを理解した。また矢島八朔祭りについては、最近は９月の第２土曜日に宵宮、日曜日に祭典が開催されるようになったが、高松から矢島へ移封された生駒氏もご覧になったなど、400年以上の長い歴史があることを理解した。更に矢島八朔祭りの現在と過去の様子を比較し、旧矢島町内の急激な人口減少により、祭りの存続が厳しくなってきていると発表した。このような問題は矢島八朔祭りのみならず、県内はもとより全国各地で見られ、伝統行事の継承には若者や子どもの参加が必要だとした。

図５　鳥海探究グループ発表会

（３）地域社会の一員を目指して

グループ別探究活動の発表会の後は、「地域社会の一員を目指して」というテーマで、各自の進路目標達成のための学習を行っている。いわば１年次から行ってきた鳥海探究の集大成といえる。このテーマについての学習は令和６年１月まで行われる。

学習内容
- 自己理解（２時間）・進路講話（１時間）
- 地域と全国の企業の比較（２時間）
- コミュニケーション力の育成（９時間）
- 合格体験記の作成と発表（４時間）
- 社会人のマナー・常識（３時間）
- 地域貢献（除雪ボランティア）

図６　合格体験記の発表（令和４年度３年生）

Ⅳ　検証

１　生徒のアンケート実施

鳥海探究グループ発表会終了後、生徒に対して、２年次（３年次のグループ発表会まで）の目標である、地域の歴史や文化に対する理解を深めるとともに、自己の在り方・生き方を展望することができたかについての４段階評価と、自由記述を行った。

（１）４段階評価

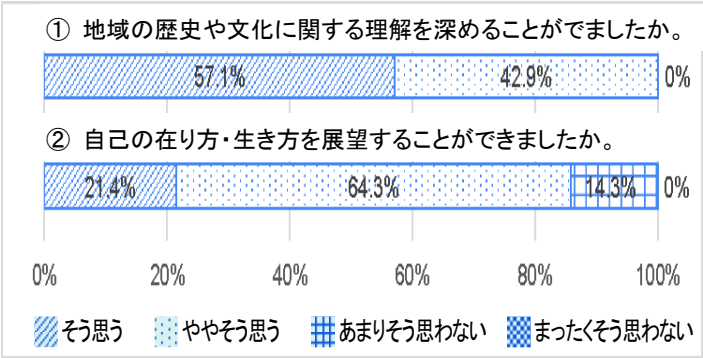


図７　アンケート結果

（２）自由記述（一部抜粋）

○皆と協力して研究することができた。地域食材や文化などをよく知ることができた。他にも実際に給食を作ってみて、改善点や、今後にも役立てそうなことなどたくさん学べた。今回の探究活動で学んだことを次の活動に生かしていきたい。

○矢島の八朔祭りは 400 年以上も前からある古い祭りであることや、祭り自体がどのように変わってきたか分かった。また、八朔祭りは矢島だけのものだと思っていたが、調べていくうちに他の県にも八朔祭りがあることが分かり、他の地域と比較することで、矢島地域の抱える課題にも目を向けることができた。

○最初はテーマから考えることが難しくて話し合いがなかなか進まなかったが、色々調べたり意見を出し合ったりして、最終的にはすごくいいスライドを作ることができた。八朔祭りは聞いたことはあったが、全国色々な場所で行われていることを知り、驚いた。矢島は矢島なりの良い伝統を受け継いでいることも知ることができた。改めて、自分たちの住んでいる身近なところでたくさんの歴史や伝統文化があることがわかり、調べていてとても面白かった。

○ジオパークについてほとんど何も知らない状態から、グループのメンバーと協力して活動できた。そして研究発表の際はスクリーンを活用しながら１、２年生にジオパークについて広めることができた。また、ジオパークについての理解を深められたことに加え、私たちとの関係まで知ることができてよかった。

２　生徒のアンケート分析

評価項目①については、そう思うが 57.1%、ややそう思うが 42.9%で合計 100%、平均値は 3.6 である。一方、評価項目②については、そう思うが 21.4%と少なく、また、平均値も 3.1 と小さかった。

3　学年部職員の振り返り

（１）グループ別探究活動について

○興味関心のある生徒の集まりでテーマを共有できたため、スムーズに進めることができた。また、リーダー決めや、役割分担等も生徒主導で進めたのが良かった点である。

○「地産地消」をテーマにし「給食」の献立ということでスタートしたため、多種類の食材の中でも、テーマにふさわしいものを選ぶことができた。

○矢島地域に伝わる伝統文化を調べることを通して、地域の抱える課題に自ら気付いたようである。また、自分が住む地域についてどのように関わっていかなければいけないか考える良い機会になったようである。さらに深い探究活動をするためには、地域の方から直接情報を得たり、実際に参加・体験したりする機会が必要であった。

○グループ別で行うことで矢島地域のことについて生徒たちが自ら進んで活動することができた。

（２）鳥海探究全体について

○生徒の進路希望は地元のみならず、全国に広がっている。鳥海探究は地元の題材を扱うことが多かったが、ローカルな視点からグローバルな視点に広げさせることに繋げることができたと考える。

○１年次は校外に出向いて体験を重ねることで地域の歴史や文化、自然に対する興味・関心を高め、２年次からは探究活動を通して、地域の現状や課題、地域社会の一員としての生き方を生徒が主体的に考えることができ、鳥海探究の授業の目標を達成できていると感じている。

○継続的に地元の文化習慣などを学習することは大変よいことだと思う。

Ⅴ　研究の成果と今後の課題

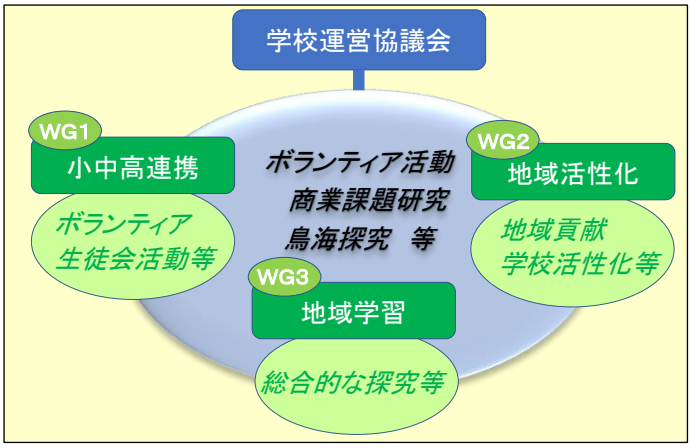
1　生徒のアンケートより

調査項目①の数値については、指導目標はほぼ達成されたと考えられるが、調査項目②については数値からは、指導目標十分に達成できたとはいうことはできない。つまり、グループ別探究活動によって、生徒は地域についての理解は深まったが、自己の在り方や生き方の展望に繋げることまではできていないということができる。このことについては、現在行っている鳥海探究Ⅲ「地域社会の社会の一員を目指して」の中で、進路指導と関連付けながら育成していきたいと考える。

また、鳥海探究Ⅲの目標の「地域の産業や職業について学び、地域社会の一員として将来の生き方を求める。」についての評価に関しては、12 月をめどに生徒に対してアンケートを行い、分析したい。

2　学校運営協議会ワーキング・グループでの取組

冒頭、「Ⅰ本校の概況」のとおり、本校は学校運営協議会を設置しており、協議会は矢島小・中学校の校長をはじめ地元の有識者 12 名と本校校長からなる。更に協議会は３つのワーキング・グループ（以下WG）をなしているが、今年度からWGの協議内容を刷新した。それは、令和６年度から小中高校舎一体型の連携校になることに加え、昨年度まではWG３は、坂之下番楽をはじめとした伝統文化伝承保存や自然環境保護について協議を行っていたが、坂之下番楽の練習・発表を令和４年度入学生（現２年生）から止めたことによる。今年度の学校運営協議会の組織は図８に示した。



ＷＧ１	小中高連携校のスタートに向けて、連携の在り方を協議する〔ボランティアや生徒会活動の連携、学校行事についての提案〕
ＷＧ２	地域の活性化に資する地域貢献活動について協議する〔地域貢献や学校活性化に向けた取り組みについての提案〕
ＷＧ３	地域を素材とした学習の充実について協議する〔総合的な探究や地歴･公民、理科、家庭科等の授業についての提案〕

図８　矢島高校学校運営協議会組織

現在、地域に根付いた総合的な探究の時間の充実については主にWG３で協議されている。今後、地域や関係機関とのより良い連携・協働を行いながら、新たな教材や外部講師等の人材を発掘することが課題である。

3　その他

教職員の数が減少していく中で、成果を受け継ぎ、更に深化するために、継続的に指導できる体制を構築する必要がある。本校の特色を生かしながら、地歴・公民や理科、家庭科等の教員と連携しながらの教科横断的な指導や、小・中学校の教職員との連携を図った指導、教職員の研修を行うことで、鳥海探究をより充実させていきたい。

Ⅵ　おわりに

現３年生については鳥海探究Ⅰ～Ⅲとして入学時から指導してきたが、学年部のみならず、他の学年をはじめ多くの教職員の指導や協力があって実施できていることに、感謝申し上げたい。

Ⅶ　引用・参考文献

※１　高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説
総合的な探究の時間編
※２　日本大百科全書（小学館）